

茶病虫害防除情報

【第 17 号】

令和 4 年 10 月 27 日

鹿児島県経済連・肥料農薬課

秋芽を弱らせ・来年の発生源となる

秋整枝後のハダニ防除対策

記録的な猛暑が続いた今年の夏も 10 月中下旬になり、漸く気温が急激に低下し、秋の気配を感じる気候になりました。今年の秋芽生育期の生育前半は高温で比較的晴天が続きましたが、後半の 9 月は秋雨前線や台風 11、14 号の影響などで曇雨天日が一時ありました。秋芽の病虫害の発生は病害、害虫とも全般に概ね平年並か少ない発生に推移しました。秋整枝もほぼ終了しましたが、これまでの皆様の適切な管理により秋芽は生育・充実してきました。今回は、充実した秋芽の成葉を弱らせ、さらに来年春期発生の発生源になるハダニの防除対策についてお知らせします。

☆ 今年の発生状況・・・最近増加傾向

今年のハダニの発生は、例年被害がみられる春期は昨年が続いて概ね少発生で経過しました。また、最近一時的に増加する秋芽生育期の 8-9 月は更新園を中心に一時増加しましたが、その後天敵の増加や降雨などの影響によって減少しました。しかし 10 月以降は晴天傾向が続き発生がやや増加傾向です。

県病虫害防除所の 10 月の調査では発生ほ場率 47%(平年 36%)、寄生葉率 2.4%(平年 1.4%)で発生量は平年よりやや多く、また、今後気温は平年並みか高く、降水量は平年並みの気象予報などから 11 月の病虫害発生予察情報は「やや多」の予報となっています。

本会で例年行ってきた 10 月下旬の主要産地の発生状況調査は諸般の事情で今年も中止し、南薩、日置地域の一部産地について調査しましたが、発生は予察情報と同様に平年並みかやや多い状況でした。

カンザワハダニは例年今頃からが秋期の発生時期で、11 月頃にかけて増加する傾向があります。また、温暖化の影響で年によって 11 月以降に増加し、越冬密度が高くなる場合がありますので、今後の発生にも注意が必要です。

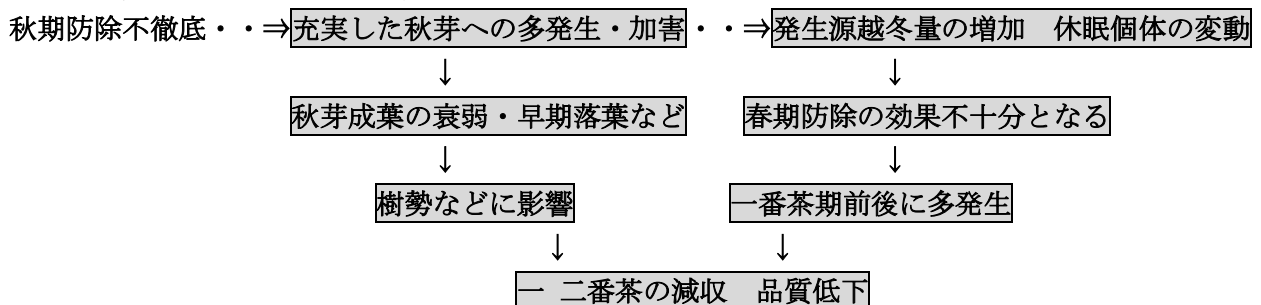
☆ ハダニの発生・・・秋発生と春発生との関係は

秋のハダニの発生は 11 月下旬頃まで続き、ここで増加したものが主に雌成虫で越冬します。また本県のような暖地では冬期でも少しずつ増加し、越冬密度がさらに高まる場合があります。

越冬密度が高いと越冬後春の防除の効果も不十分になることがあり、春期多発生の原因になります。つまり、秋の発生を少なくすることが春の発生を抑えるポイントといわれています。

また、最近の研究で、越冬雌成虫の休眠個体率の変動は、今の時期、つまり 10 月後半から 11 月前半の気温の影響を受け、その期間の平均気温が 17.5℃より低いと休眠個体率が高まるということが明らかになっています。つまり、これからの気温や天候は越冬密度や越冬状態、ひいては春の発生にかなり影響するようです。

☆ 秋期のハダニ防除が不徹底であると



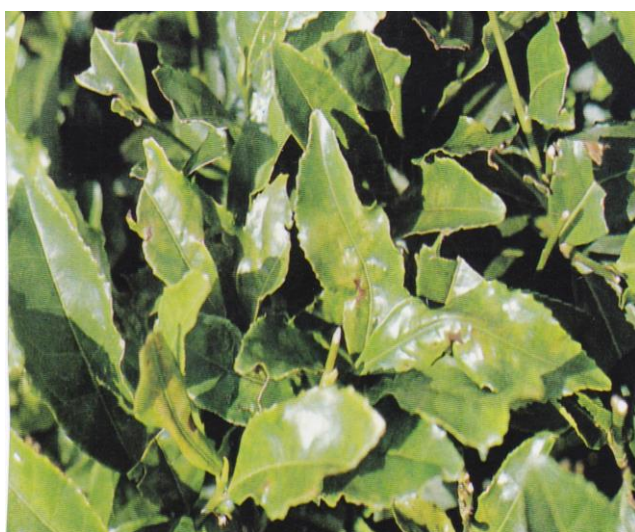
☆ 秋期ダニ防除の基本的考え方

- (1) 最近秋期のダニ発生は少ない傾向が続きましたが、これは選択性薬剤の使用に伴いカブリダニ類など天敵の増加などが影響していると思われます。このため秋期防除の重要性も低下し、従来の基幹防除採用から防除不要に変わってきました。このような状況から、防除はそれぞれの茶園の発生状況を確認し、防除要否を判断し、実施してください。
- (2) 例年 11 月頃から増加しますので、秋期防除の時期は、秋整枝後の 11 月頃に成虫・幼若虫・卵のいずれのステージにも効く殺ダニ剤で防除します。
- (3) この時期のハダニは、摘採面、裾部など葉層の全体に分布していますので、葉裏や裾部に薬液が十分かかるように散布します。
- (4) チャトゲコジラミの発生が多い園はミルバノック乳剤、アグリメック、ダニゲッターフロアブルなどで同時防除します。
- (5) ミルバノック乳剤、マイトコネフロアブル、ダニゲッターフロアブル、アグリメック、スターマイトフロアブル、マシン油、サンクリスタル乳剤はサビダニ類にも有効です。

☆ 秋整枝後のハダニなどの薬剤防除法

病虫害名	防除時期	主な薬剤名	使用濃度	使用基準	
カンザワハダニ	秋整枝後 (11月頃)	ミルバノック乳剤	1000倍	7日前 1回	
		ピラニカ EW	1000～2000倍	21日前 1回	
		マイトコネフロアブル	1000倍	被覆 14日前 1回	
		スターマイトフロアブル	2000倍	7日前 1回	
		スターマイトプラスフロアブル	1000倍	14日前 1回	
		ダニコングフロアブル	2000～4000倍	7日前 1回	
		アグリメック	1000倍	7日前 1回	
	越冬期 (12月下～2月)	ハーベストオイル (マシン油剤)	50～150倍	発芽前、摘採直後	—
		トモノール S (マシン油剤)	50～150倍	10～3月	—
		スプレーオイル (マシン油剤)	50～100倍	10～3月	—
		サンクリスタル乳剤	300～600倍	摘採前日まで	—

- 注) ① マシン油剤は散布後凍害発生や赤焼病発生を助長することがあるので、使用する場合は茶葉、越冬芽が耐凍性を十分獲得した 12 月下旬から 1 月頃に行います。
- ② ミルバノック乳剤、マシン油剤、サンクリスタル乳剤は有機農産物 JAS 規格において使用が認められています。



秋芽のカンザワハダニ被害葉



カンザワハダニ寄生状況